

【漁業・水産加工業：八戸地区】

1. 八戸港の水揚げ状況

数量： 7,656 トン (前年同月比 12.6%減)
 金額： 952 百万円 (前年同月比 45.4%減)

- ・7月の八戸港の水揚げは、全体で数量7,656トン・金額952百万円で、前年同月比で数量は12.6%減、金額は45.4%減となった。
- ・7月の数量は2017年の7,857トンに次いでこの10年間で5位、金額は2012年の1,278百万円に次いで10年間で9位だった。
- ・数量と比較して金額が低かったのは、大中巻き網でマイワシが5,927トンと全体の水揚げの7割以上を占めたものの、マイワシの魚価が低いことによる。
- ・イカ釣り（船凍スルメイカ、船凍アカイカ）で、船凍アカイカの水揚げが1,340トンであったが、好調だった前年の水揚げ3,390トンと比較すると、前年同月比で60.5%減となった。金額も、前年同月比54.7%減の594百万円だった。また、近海スルメイカの水揚げも数量が43トンと同57.4%減、金額も同51.4%減の27百万円だった。船凍スルメイカも含めたイカ釣り全体では1,425トン・655百万円と数量で同59.2%減、金額で同52.1%減といずれも減少となり、イカ釣り全体での不振が目立った。一方、アカイカの魚価は在庫確保の見通しから下旬にかけて上昇し、昨年の10キロ当たり6,737円から8,090円と上昇した。
- ・巻き網漁は、マイワシが好調で、三陸で4,897トン・159百万円、遠海が1,030トン・34百万円の水揚げとなった。巻き網漁のサバ・イカはの水揚げはなかった。
- ・大型トロールは、現在操業中のため水揚げはなく、7月は蔵出し販売のみ。中型トロールは、7月と8月は休漁・整備期間中。

＜ 八戸港漁業種類別水揚げ状況（2021年7月） ＞

(単位：トン・%・百万円・%・円/10キロ)

	数量	増減率	金額	増減率	魚価
イカ釣り	1,425	△ 59.2	655	△ 52.1	4595
トロール	0	△ 100.0	-	△ 99.6	-
巻き網	5,927	21.5	193	△ 25.0	325
小型巻き網	0	△ 100.0	0	△ 100.0	-
その他	304	48.3	104	30.9	3,415
月計	7,656	△ 12.6	952	△ 45.4	1,243
年累計	14,295	△ 3.3	2,708	△ 26.7	1,894

※年累計は2021年1月から

資料：八戸市農林水産部水産事務所

＜ 八戸港イカ水揚げ状況（2021年7月） ＞

(単位：トン、百万円、%、円/10キロ)

	数量	前年同月比	年累計数量	前年同月比	魚価 2021年
	金額	前年同月比	年累計金額	前年同月比	魚価 2020年
生スルメイカ (近海スルメイカ)	43	△ 57.4	66	△ 46.3	6,192
	27	△ 51.4	50	△ 34.4	5,426
船凍スルメイカ	42	1300.0	672	△ 6.5	8,090
	34	1581.2	450	△ 39.5	6,737
ニュージールランドスルメイカ	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
船凍アカイカ	1,340	△ 60.5	1,386	△ 60.0	4,435
	594	△ 54.7	605	△ 55.1	3,915

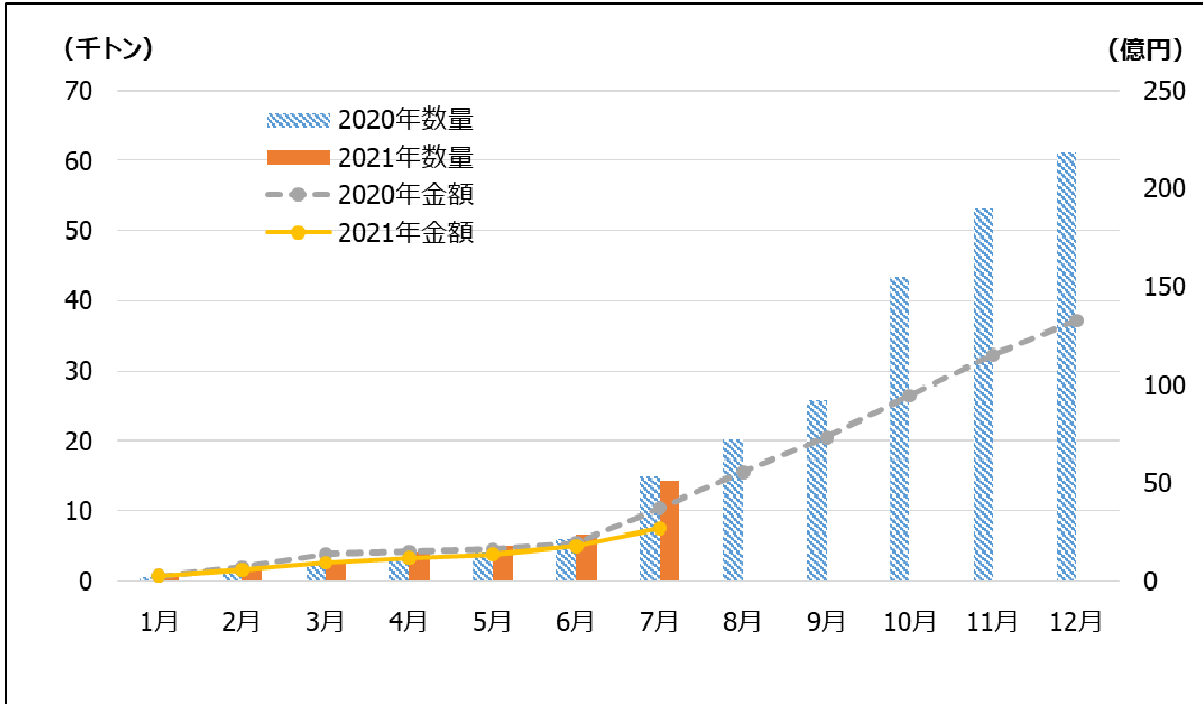
※年累計は2021年1月から

資料：八戸市農林水産部水産事務所

2. 水産加工業

- ・調理済み製品（イワシ醤油煮等の簡便・時短商品）は、原料（イワシ、さんま、ホタテ等）の調達が思わしくなく不調。
- ・しめさばは、輸出向けの回復が目立つが、コロナ前には今一つ戻らず。
- ・塩辛やその他珍味類は、コロナ禍による「宅飲み」のつまみ需要を受けて好調。
- ・飲食店向けの業務用商品の需要回復は依然として遅れている。
- ・さば缶詰類は、前月同様の販売状況。
- ・さば缶詰以外の、イワシ缶詰・いか缶詰・さんま缶詰等については、原材料の品質や価格の問題もあり、現状以上の製造販売は予定せず。

＜ 八戸港水揚げ高・金額（年累計） ＞



資料：八戸市農林水産部水産事務所

＜ 八戸港主要水産物輸出状況（2021年7月） ＞

（単位：トン、百万円、下段は前年同月）

		数量	累計数量	金額	累計金額
サバ	本年	646	2,801	77	320
	前年	624	3,197	62	351
イカ	本年	0	197	0	86
	前年	0	498	0	266

※年累計は2021年1月から

資料：財務省貿易統計